

みんなで語ろう！
～いなむら市長とともに車座集会～

概要

平成23年7月25日(月)14:00～15:30

会場：立花支所 参加者：13人

みなさまこんにちは。市長の稲村です。今日は皆さんお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。市長に就任いたしまして、半年以上が経ちました。少しずつ市の全体像もわかってきたかと思っている間に、来年度予算の議論が庁内で始まっております。今年度の取り組みを踏まえて、予算編成を着々と進めております。来年度はより一層いなむらカラーを出しながら市政を運営してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今回は初めてのテーマ型という新しい試みでの車座集会になります。3月11日の東日本大震災により、エネルギー政策を含めて大きな関心を呼んでいます。節電についてみなさまの普段の取り組み、苦勞をなされている点などのご意見を出し合ってください。今後そういった知恵と工夫を尼崎市全体で共有したいと思っています。また市として取り組めることが他にもあるのではないかとご提案も積極的にいただけたらと思っています。みなさまと話す時間は市の環境政策について中心に話をしたいと思っておりますので、まず始めに施政方針について簡単にお話をさせていただきます。

このプランでも、尼崎市の財政状況が非常に厳しいということをご理解いただけたらと思います。私の役割、使命は財政運営をしっかりとコントロールしていくということです。しかし財政をしっかりと立て直すことだけが目的となるのではなく、私たちが安心し、未来へ希望が持てるようなまちづくりを進めていくための手段でありますので、そこが本末転倒にならないようなまちづくりを進めていくために、市役所一丸となって頑張っておりまして取り組みをはじめております。その施政運営の基本的な考え方として3つの柱を掲げております。

1つ目の柱はコンパクトで持続可能なまちづくりです。これは本日のテーマにも深く関わりのある柱です。尼崎はいうまでもなく地域は非常に狭い都市で、公共施設はすでにコンパクトではありますが、競艇場の売り上げ等により、潤沢な財政状況があったときに非常にたくさんの公的施設を整備し、小学校等も同時期に整備をしました。老朽化の問題により、尼崎市にある様々な公共施設が一斉に更新が必要な時期に差しかかっています。また、私たちの社会が人口減少社会へと大きく変化する時代を迎え、公的施設にもバリアフリーのような利用しやすさを求められるようになりました。高齢社会は全国共通の問題です。震災の後、市民の方々から心配の声をいただいております。これから十分に耐震化をした、一定の高さを備えた防災拠点になるような施設を整備していく時期に差しかかっています。またバリアフリーを徹底してほしいというような皆様のニーズに合わせて、使いやすい施設に更新をしていかないといけない時期ですので、コンパクトに施設を減らす代わりに、今の時代に合った機能や施設整備をしっかりと進めていこうと思っております。遅くとも年末か年明けにみなさまに青写真がお出しできるようにと準備しております。

あと市営バスの今後についても、大きな問題となっております。尼崎市営バスの経営は非常に厳しい状態となっておりますが、私は移動手段を守っていかなければならないと思っています。そして環境を守っていくためにも、できるだけ公共交通機関をご利用いただきたいと思っています。高齢者の足であり、環境に配慮した移動手段としての市営バスを、サービスを持続可能な費用で実現していくためには、市営バスのままの経営主体がいいのか、民間の方と力を合わせて経営していくのかを議論し、みなさまにご意見をいただくべく、準備しております。いずれにしても福祉の面、環境の面、両方から市営バスと政策的な観点から今後も関わり続けていくわけですが、運営のあり方を見直していくことで準備しております。先ほど申し上げました施政の見直しも進めてまいりますので、数が少なくなった施設へのアクセスを良くすることもセットで考えていく必要があると思っております。

(配布したエコプロダクツのチラシを見て)

次にエコプロダクツグランプリですが、尼崎市では産業界の皆様と一緒にエコ未来都市あまがさき宣言という共同宣言をおこなっております。かつて公害のまちと言われた尼崎市ですが、住んでいらっしゃるみなさまは体感なさっているとおり、環境の整ったまちへと大きく変貌を遂げました。尼崎市の企業の技術、暮らしと産業の共生という理念を推し進めていくエコ未来都市あまがさき宣言。この宣言を受けて、尼崎市で製造されている環境に配慮した製品を応募していただいて、グランプリを差し上げて、皆様にアピールしようという取り組みです。これが今年度の新規事業として実施しております。本日は商品を作られている参加者は少ないかもしれませんが、こういったエコプロダクツのグランプリ、秋におこなわれる産業フェアで、皆様にお知らせしたいと思います。また、エコプロダクツグランプリに関心がお有りの企業の方でお知り合いがいましたら、ぜひ積極的にお声をかけていただきたいと思います。

2本目の柱として「信頼と分かち合いのまちづくり」を掲げております。景気の低迷を受けて失業してしまったという若い方、また単身高齢者の方が多いのが尼崎市の特徴ですが、仕事が出来なくなったお年の方で生活保護を受給せざるを得ないという方が増加するといった背景があり、生活保護受給者が急増してきたという経緯があります。今はその増加が少し落ち着いてきましたが、依然として非常に多い状態にあります。私は支援を必要とされている方々と一緒に頑張っていけるような応援施策をおこなっていききたいと思えます。支援を必要とされている方々はそれぞれに事情があり、みなさまを一律に就労支援や、健康アドバイスをしようと思っても、状況が違います。このことを踏まえて、今回は多様な課題にきめ細かく対応するために、見守り等の支援が中心となる高齢世帯には専門的資格をもった嘱託職員による支援を行い、ケースワーカーは多様な課題をもつ生活保護受給者の自立に向けたよりきめ細やかな支援を行うものとしています。また、そうした支援の一つとして、生活保護受給者の方に、地域の皆様と一緒に、ボランティアや地域の活動に参加をしていただきたいと思います。お勤めになるということが難しい方でも、活動の中で自分自身を取り戻していただいたり、健康状態を整えたり、人と人とのつながりを編みなおしたり出来るような支援に今年度から力を入れようとしております。このような支援を通じて、生活保護制度への不信や不満をお感じになっている方でも、いろんなケースがあるのだと、理解しあえるようなまちづくりを進めていきたいと思います。これが2本目の信頼と分かち合いのまちづくりでございます。

担当課からのコメント①

3本目の柱が市民自治のまちづくりです。先日記者発表もさせていただきましたが、皆様から支払っていただいている税金がどのように使われているのかということ、皆様と共有し、検討、改善を皆様からの目線で評価をいただく事業の棚卸しを来年度実施しようと思っております。その元となる情報を皆様にごわかりやすくお伝えしたいということで、事務事業評価のシート作成などの取り組みを進めております。来年度みなさまに理解しやすい形で、評価に参加していただきたいと思いますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

(配布した第2次地球温暖化対策地域推進計画 概要版を見て)

続きまして環境施策についてご説明させていただきます。第2次地球温暖化対策地域推進計画は話題となっている節電、節電を通じてCO2を削減していこうという地域計画です。是非みなさまにご覧いただきたいのはエコマップという尼崎の地図ですが、尼崎市の環境に関するさまざまな施設や取り組みを紹介していますので、ぜひともご覧いただきたいと思います。尼崎市は産業都市として発展し、産業を支えられているまちです。産業と環境を結びつけて、環境を新しいビジネスや産業の活性化に繋げていくことももちろん、物を作るには一定のエネルギーが必要ですので、その分、私たちの家庭や暮らしの中でもしっかりと節電をはじめとするCO2削減の取り組みを進めていきたいと思います。

市長

取り組み内容としましては、1番目は尼崎市では家庭への太陽光パネルの設置を助成をしてきましたが、国の制度があるということで、より広い面積での取り組み、公共施設への太陽光パネルの導入を積極的に進めております。2番目は楽しみながら実施できるエコライフを尼崎市民の間で広めていこうということで市民のライフスタイルの変革を進めていこうと思えます。今日もその取り組みの一環となるでしょう。そして3番目が先ほど申し上げましたエコ未来都市尼崎宣言に基づき、産業界と連携して進めていきたいと思います。これは尼崎としては非常に大事な取り組みだと思っております。4番目は低炭素なまちづくりです。徒歩、自転車または電車、バスなどの公共交通で移動しやすいまちづくり、これは尼崎市の特徴でもありますのでしっかりと進めていきたいと思います。5番目が緑化です。市役所が壁面緑化をおこなっているのをご覧になった方いらっしゃるでしょうか。壁面緑化や屋上緑化もいろいろなおところでご協力いただいております。コンテストもしております。壁面緑化にご協力いただいている事業者も増え、取り組みが根付いてきたかなと思っております。

そして6番目は資源を無駄なく使うという取り組みです。これは大量生産、大量消費、大量破棄という時代から循環型社会に社会のあり方を変えていこうという取り組みです。皆様には是非ご協力いただきたいのがごみの減量化です。リサイクルを行い、資源化するということはごみの減量につながります。捨ててしまえばごみですが、もう一度使えば資源というものが非常にたくさんあります。資源化をしっかりと進めることによって、ごみを減らすことが出来ます。そして、ごみとなるようなものをあまり作らない、使わないライフスタイルへと見直していく必要があるのではないかと思います。

(配布されている一般廃棄物処理基本計画を見て)

先ほどの地球温暖化地域推進計画と同時期にごみの処理基本計画も策定しました。ポイントがいくつかございます。今のクリーンセンターなど新しい焼却炉の建設には費用が非常にかかるため、その借金を返すため財政が圧迫されています。ごみ処理が止まってしまうと困りますので、尼崎市には第1工場と第2工場の2つの焼却施設があります。古いほうの焼却施設である第1工場は平成37年度に耐用年数の目安となる25年目を迎えますが、ごみの量を減らすことができれば、第2工場だけでごみを処理することが可能となり、第1工場での処理を止めることが出来ます。一方、このままごみの量を減らすことが出来ない場合、老朽化により第1工場の建て替えが必要となって参ります。そのためには約56億円の費用が必要となることに加え、その後も運転経費として毎年約5億円ずつが見込まれます。ですから、第2工場だけでごみの処理が出来るまでごみの減量化が図れば、大きな経済効果が生じます。私たちの貴重な税金を、ごみを燃やすためだけでなく、必要としている優先順位の高いサービスに使いたいと思っております。この一般廃棄物処理基本計画は平成23年度から平成32年度までの10年計画となっており、平成37年度までに第2工場だけでごみの処理ができるようにするための、平成32年度におけるごみの減量目標が示されています。ぜひ、各ご家庭で一人一日につきおよそ卵1個分くらいのごみの減量をお願いいたします。それだけのごみが減り続けると、平成37年度には新しい焼却炉を建設しなくても済むくらいのごみの量となります。

	<p>尼崎市で燃やしているごみの中には紙ごみがたくさん混ざっております。尼崎市はお菓子の箱でも紙袋に溜めていただいたら回収をしていますので、そのような紙ごみを「燃やすごみ」から取り出して、資源として回収すれば、かなり「燃やすごみ」を減らすことができます。このような背景から、尼崎市では収集体制を見直したほうがいいのかという検討を行っています。今後皆様はこの計画について説明会をして参りたいと思います。</p> <p>計画では、現在、週3回行っている「燃やすごみ」の収集を週2回に減らして、余った1回分を紙ごみの収集に充てたいと考えております。夏場にはこまめに生ごみを出したいというご要望があるとは思いますが、ごみの減量についてぜひ皆様でも工夫をしていただき、第1工場を建て替えずに済む量までごみを減らしたいと思っています。そして、平成36年に突然、第1工場を建て替えなければならなくなっても困りますので、計画の中間年度である平成27年度に中間評価を実施しようと思っています。計画の中間評価で目標までの進捗状況が悪いようでしたら、ご議論があるとは思いますが、ごみを有料化して多く出す人にはごみ処理のコストも多く負担してもらっても検討せざるを得ないということです。反対に、中間評価にて順調にごみが減っており、その取り組みを続けることができれば、ごみを有料化するどころか、平成37年度に第1工場を建て替えせずに済み、私たちはそのごみを燃やすために使っていたお金をもっと有効なことに使える見通しが立つのです。皆様と一緒に、どれくらいごみの量が減っているのかを共有しながら、ごみを減らしていきたいと思っています。ごみの減量や節電について、市民一丸となって取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>最後に取り組みをいくつかご紹介いたします。今年度エコファミリー募集という取り組みを行っています。これはインターネットを利用してCO2の排出量を計算し、環境家計簿をつけるという挑戦をご家族でしていただければいいという取り組みです。CO2削減量の上位の方には電力表示機やサイクルコンピュータをプレゼントします。皆様節電には自信があるということですが、実は我が家も家電が古くて、買い替えを検討中なので、買い替え前からどのくらい減るか、私もエコファミリーに登録して試してみようかと思っています。削減量を数字という目に見える形ですと嬉しい気持ちになり、もっと頑張ろうという気にもなるのでぜひとも皆様にもエコファミリーにご応募いただければと思います。</p> <p>(配布する環境オープンカレッジの資料を見て) また私が学長を勤めさせていただいております尼崎環境オープンカレッジという取り組みがございます。これは楽しみながら一緒にいろんなイベントに取り組んだり実践をしていこうという市民の活動をネットワーク化しているものです。 (配布したあまエコろくの資料を見て) オープンカレッジではいろんなキャンペーン、勉強会、イベントがあり、参加の際にはあまエコろくにシールを、たくさん集めた方にはプレゼントもあります。ぜひ年に1、2回だけの参加でももちろん構いませんので、尼崎環境オープンカレッジの方にもお気軽にご参加いただければと思います。イベントや勉強会に参加したら、オープンカレッジの仲間となります。</p> <p>私の話は以上とさせていただきます。車座集会はみんなで語ろうというタイトルを付けさせていただいているので、尼崎市への提案やご質問も大歓迎ですが、みなさまで情報交換をしてエコな暮らしのコツを共有したいというのが目的の一つでもありますのでご意見よろしくお願いします。またこの車座集会から情報を発信しますので、今日こられてない方も含めて、市民の皆様への呼びかけとか提案でも結構です。どなたか発言していただけますでしょうか。</p>
市民	<p>気になっていたのですが、昔乾電池って燃えるごみではなかったのですが、何年か前から燃えるごみになったんです。隣の西宮市は乾電池はリサイクルで集めているんですが、乾電池を燃やしちゃって大丈夫なのかなと思います。</p>
ごみ減量推進課	<p>ごみ減量推進課です。後ろから失礼いたします。尼崎市における乾電池の分別区分は「燃やすごみ」となっていますので、生ごみと一緒に日に出していただければ結構です。もちろん鉄の外枠とかは燃えませんが、燃え殻と一緒に燃えた後の焼却灰から鉄の部分は溶融設備で回収し、資源化されております。乾電池は燃やしてはいけないと言われていた理由は、昔の乾電池には水銀が入ったものが多かったからです。しかし現在では、各種電気メーカーにおいても環境対策という観点から乾電池に水銀が入っているものはほとんどございません。電池のケースを見ていただいたらわかるように「水銀ゼロ」と表示されていますので、焼却しても環境に悪影響を与えるものではございません。ですから、尼崎市では焼却させていただいているという現状でございます。</p>
市長	<p>では次の方どうぞ。</p>
市民	<p>よろしく申し上げます。何年か前まではごみは随分分別していましたが、最近は値段の高い156億円の焼却炉のおかげで何でも燃やせるということを聞いたことがあります。何でも燃えるごみに入れることができるため、ごみが増えるようになったのではないかと思います。ごみ袋の有料化になってから、少しごみが減ったということを聞きました。それと紙ごみですが、新聞や広告とか雑誌とかは整理して入れますけど、形が崩れている紙はグリーンの袋に入れて出させていただけののなら、紙は生ごみと別の袋で出せると思うんですね。ただ、現状では形が崩れた紙は生ごみとして出してしまいます。</p>

市長	ありがとうございます。紙ごみですが、細かい紙ごみと紙袋がありますよね。その袋自体も紙でできていますよね。紐がビニールになっているものもありますが、紙袋に入れていただいて出していただければと思います。
市民	やはりきちんと揃えてないといけなくて、くちゃとなった紙は入れてはダメなんですね。
市長	大丈夫ですよ。箱はつぶして、少し高が低くなるようにして紙袋の中に入れて詰めていただいて、あとはバラけないように入り口を括っていたいただければ大丈夫です。
市民	紙を破って袋の中に入れてもいいんですよね。
市長	<p>そうですね。破った紙ごみは紙類の日に出していただけます。</p> <p>あと、「燃えるごみ」を「燃やすごみ」にしてからごみの量が増えたというご指摘ですが、「燃えるごみ」と「その他・プラスチックごみ」に分別していた頃はプラスチック類のリサイクルは難しく、焼却が可能な炉だけを用いてプラスチック類を焼却しておりました。今はすべての焼却炉で安定的にプラスチックと生ごみが混ざったものであっても、焼却が出来るようになっております。そういった経緯もあり、「燃えるごみ」と「その他・プラスチックごみ」を一緒にした「燃やすごみ」としての分別を始め、回収コストを節約させていただいているところです。</p> <p>プラスチック類のリサイクルを進めていく上で、再利用しやすいようにするには、製造段階からいろいろな種類のプラスチックが混ざっていない製品を作る必要があります。これから製造者に働きかけていかなければなりません。現状本市ではプラスチック類はリサイクルできず、燃やしております。</p> <p>あまりにごみの減量が進まない場合は、ごみを有料化したり、プラスチック類を分別したりしなければなりません。特にプラスチック類をリサイクルするには、何十種類という細かい分別をしないと効率的なリサイクルは出来ません。ごみの量を減らさなければ、第1工場の建て替えをしなければならない可能性もあります。市民の方に過剰な負担にならないように、日常のちょっとした中で出来る範囲のごみ減量を進めていきたいと思っています。プラスチック類を燃やしてしまうことは、環境施策として後退しているというお声がありました。確かにプラスチック類を分別することも大切ですが、そもそもごみとなるプラスチック容器を増やさない生活を推進することが大事であると思います。炉の関係があるのは事実ですが、プラスチック類のリサイクルは難しいという現状をご理解いただきたいと思っています。</p>
市民	<p>色のビンのリサイクルにしても乾電池のリサイクルにしても、そういうごみの分別が伊丹市は出来ているのに尼崎はなぜ出来ないのかが大きな疑問です。尼崎はいい焼却炉が出来たからあまり分別をしていませんが、便利すぎてリサイクルしておく必要のあるものも、ごみに捨てるということが多くなるという問題があるのです。</p> <p>あとはポイ捨ての問題です。ポイ捨て条例をきちっと作ってください。白井市長の時代からずっと言っているんですが、そういう環境問題が出来ていません。便利のいい機械だけが、前に進みすぎている問題がある。家電製品は別ですが、大型ごみとかの有料は京阪神で尼崎だけですからね。伊丹市や川西市、宝塚市は年に何回か無料です。そこで年配者へ負担がかかります。</p>
市長	<p>ありがとうございます。先ほどご発言いただいた中で、1番のポイントはポイ捨て禁止条例をしっかりと整備し、まちをきれいにしていくことが大体の趣旨であったと思います。駅前などの人通りの多いところ、マナーの点でもみなさまが気持ちよく過ごす公共空間であるべきではないかという議論は始めていかなければならないという問題意識を持っています。ずっと言い続けているというお気持ちはよくわかりますが、今日のところは持ち帰らせていただきたいと思います。</p> <p>あと施設ばかりを良くしても駄目ではないかというご意見も、おっしゃるとおりです。しかし尼崎市はダイオキシン問題など、公害に苦しんできたまちでありますので、私たちの健康を損なうことがないよう、施設にも少しお金をかけて整備をしたということであると思っています。</p> <p>プラスチック類が「燃やすごみ」になったからといって、ペットボトルを「燃やすごみ」として捨ててしまう人がいることは、問題です。施設の発達に伴い、ごみを安全に燃やすことが出来るようになったのも事実であり、乾電池も「燃やすごみ」になりましたが、少なくともびん、缶、ペットボトルは分けるという、多くの人が難しく考えなくてもできる分別は着実に進めていきたいと思っています。</p> <p>ここから皆様の意見を聞かせていただきたいのですが、リサイクルをすればいくら使ってもいいと気持ちが緩んでしまう場合がありますね。私もついつい気持ちが緩むことがあります。ごみの減量という大元の問題を後回しにはいけないのではないかと思います。ペットボトルのキャップを集めて、子供たちのワクチンにしようという取り組み自体は素晴らしいことです。私もペットボトルを利用したときは、その蓋を集めていますが、ワクチンのために一生懸命ペットボトルを消費して蓋を集めるというのは本末転倒です。最近はいボトルが定着してきましたけれども、本来はペットボトルに依存しない生活のほうがいいのかなと思いますし、ごみの発生そのものを減らしていくような取り組みを進めていかなければなりません。ただこれといった妙案がなく、リサイクルの費用が税金で賄われており、プラスチック製品を作った企業はお金を負担していないため、企業がプラスチック製品を作り続けてしまうという側面があります。</p> <p>先日、市議会の方に陳情がおこなわれ、審査の結果、国へ意見書が提出されました。ごみの発生自体を抑制していく中で、こういったリサイクルに必要な費用は製造者に転化していくことが本来の姿だろうということで、市も政策提言に賛同させていただきました。今後はそういった取り組みを進めていかないといけないと感じております。これについてもみなさまからのご意見をいただきたいと思っています。もちろん、物の値段が高くなるのが嫌だというお声もあるとは思いますが、リサイクル費用を製造者に転化することにより、皆様がペットボトルに依存しない生活を行い、企業もそれに合わせた商売をしていくことになると思います。</p>

市民	<p>自分がやらなくても誰かがやってくれるという考え方がまだまだ定着している。私も結婚したときに妻に、ごみの分別について、だいぶ指摘されました。けど自分がきっちりと当たり前で分別することにより、他の人にも影響を与え、一人ひとりの意識が高まります。私には孫がいるが、私がしっかりと分別していると孫も真似をします。子や孫は親の背中を見て育つ。そういうことが大切で、紙一枚作ると、お水を飲むと、どれだけお金がかかっているかという大切さを教えることにより、お風呂のシャワーを小まめに止めたりする。銭湯も昔はシャワーは出ばなしでしたが、今は止まるようになっていきますね。これがエコですね。私たちのボランティア活動で主張していることは1つ1つのことを一人ひとりが実践していけば自然に環境問題などが解決されるということです。紙、チラシは置いて廃品回収に提出しています。ペットボトルのキャップは特殊なアルミなのでドラム缶いっぱい集めると車椅子がもらえるという活動を学校とかはしていますけども。</p>
市長	<p>ご家庭で祖父母、両親の背中を見て子供が育っていくことがあります、反対のケースもあります。子供たちが学校で学んできて、親に注意をしてくれたり、いろんな形で家族の中で環境のことを話題にしながら、熱心に活動していただけたら本当に嬉しく思います。ご意見ありがとうございます。</p>
市民	<p>カラスがゴミ袋に穴を開けて、袋が破れてしまって、ごみが散乱して収集の面や衛生面の問題があり、その部分を改善していかないといけないので、ゴミ袋の内容を変えようとか聞いているのですが。</p>
市長	<p>カラスの対応のためにですか。</p>
市民	<p>議会のほうも2、3回出てると思うんですけども。</p>
市長	<p>袋を変える予定にはなっておりませんが、私が聞いている範囲では、カラス対策はたちごっこで、袋を変えてもカラスは学習してしまうのでコスト面で割に合わないとのことですので、しばらくは今の袋のままです。</p>
市民	<p>あともう少し分別方法をわかりやすくしてあげたら、みんなが正しくごみを出せれると思うんです。マナーが悪いのではなく、理解できない高齢者もあり、いづどこにおったらいいのかわからないのをよく聞きにこられるんですね。聞けるところがあればいいけど、引きこりの高齢者の問題もある中で、どういう部分でみんなが関わるかということも必要かと思いますので、尼崎市みたいに社協さんとか自治会とかしっかりしている組織を持っているというのが他都市ではあまりないと思います。そういった部分ではそういう自治会とうまく運動されて、地域みんながうまく協力してというような組織作りをもう少し徹底されたら、それぞれが別々で動いているというのが理解できないなというのがあって。</p>
市長	<p>さわやか指導員のみなさまにも頑張ってもらっているのですが、びん、缶、ペットボトルと紙は分けていただくといったシンプルな分別を徹底することで、「燃やすごみ」の量も減らすことができます。まずはそこからぜひお声かけをお願いしたいと思います。ありがとうございます。 ほか節電の取組み内容や電気代がすごく安くなる方法など、何かご意見はございませんか。</p>
市民	<p>電気代の件ですが、これはエアコン、インバーターのに変えますと、電気代がざっぱんで半額くらいになります。それと必要のないときは切ったら良いというお考えがあるようですが、逆に今度は起動するときに大電力を使ってしまいますから、比較的高い温度で運転し続けることが良いんです。これがエアコンの話です。次に扇風機が今年売れているそうですが、今から35年くらい前に、扇風機で大勢の方が亡くなりました。つけっぱなしにして、体温が下がり、脱水症状、呼吸困難で亡くなってしまう方が相当居られる。実際にいたということがありますので、安いといっても命を落としてしまえば意味がない。これがエアコンと扇風機との比較でございます。</p> <p>次よろしいですか。以前市長から古い建物がいっぱいあって建て直さないといけない建物がいっぱいあると、この件については私の専門でもあったわけですが、鉄骨プレス工法つまり外側を鉄の枠で囲ってこれをラーメン構造、つまり枠の形にしてしまっ、外側に枠を作って、その加重を支える、それによって崩落を防ぐと、これはデザインの的にも非常に良いもので、すでに施工事例がいくつもありますがこれは場所を移動して市役所を作り直さなければいけないとか、学校を移転してとかそういう手間がなくて、事業を続けながら補強を続けることができる。これが鉄骨プレス耐震構造、これを導入することが1つの案です。</p> <p>2つ目ですが太陽光発電、風力発電、これは誰もが考えることですが、太陽光発電というのは非常に費用が高く、全くコストに合わない。太陽電池で起こせる電気は基本的に直流です。家庭用の掃除機やエアコンも交流ですから太陽電池をDCACコンバーターを使って交流を直さなければならない。電力会社に売ることが出来るというおいしい話があるんですが、これは実は切り替えるためのさらにそのためのコンバーターを備えなければならない。そうこうしている間に、元を取る間に太陽電池はダメになる。まだまだ太陽電池のコストは高い。ということは非常にロスが大きいと思います。次に風力発電はどうか。これは実際に今年度でしたら、早稲田大学がこの研究に失敗して、約1億円の損害賠償請求されていましたが、具体的には日本国は四方を海に囲まれているから、あちこちから風が吹き、安定しません。それと国土が狭いため、風力発電の羽がゆっくり回っているわけですが、中にはギアが入ってまして発電機を高速回転しているわけです。具体的にはこれは非常に低い周波数の音が出ているわけです。振動です。これは人間として耐えがたい苦痛となる。だから風力発電はお断りだ。立地が大切です。またコスト自体が非常に高い。破損した場合は大きい事故につながってしまう。</p>

市民	<p>3つ目ですが、尼崎市の公園の有効利用。これはあきれたことなんです、公園のベンチに高齢の男性が新聞をバツと広げて真ん中に座っている。どういふつもりか知らないですが、入ってくるとチェックするわけですね。託児所の方でしょうか、連れてきている女性が道路際で非常に危ないところで遊ばしている。真ん中に行けない。私は偶然その日だけだと思っていたが、ある日そこを通りましたら、また同じようにそんなことやっているわけです。もう良い悪いの話ではなくて、公園のベンチには婦女子優先というラベルを貼るべきであると私は断言いたします。これは身勝手なとか独善的なことではなくて、電車の中でも新聞は折りたたんで読みましょう、そのようになっているわけです。それをベンチの真ん中に座って、広げて読んでしまっちは、ちょっとどいてもらえませんかとか出来ません。ですからこれは婦女子優先であると、そこらへんの道路で遊んじゃって轢かれちゃったとかになったら、せっかくの公園の広さがあるのになぜ真ん中で遊ばないのか。実はどこかで見かけたような方が居られるんですね。困ってしまいます。こういうことになりまますと託児所の女性スタッフ、これが認可を受けている、受けていないがわからないのですが、道路際という非常に危ないところで遊ばしている。これはもうこの部署の仕事ということではなくて、公園は婦女子優先であるというふうにするべきである。</p> <p>最後になりますが、危険な遊具撤去、ジャングルジム、あとうんていがございませぬ、昨年ヘルメットをかぶった女の子がうんていに首を絞まって、意識不明の重体。こういう事故が起こってしまいますと市の管理責任であり、損害賠償請求だとすると財政が逼迫している尼崎市はとてもしゃないけどやっちはおれないと。シーソーの場合だと指の切断ということがありました。ブランコの場合だと墜落という事故がありました。今や何でもかんでも人のせい、自己責任原則を守れないのであれば、遊具自体を撤去せざるを得ない。ジャングルジムは非常に危ないんです。私自身が50年前に、落ちて大変な怪我をしたことがあります、結構危ないんです。そういったことがありますので、遊具を置くこと、また公園の中では野球、バット、これは非常に事故が多いですよ。悪気はないのですがバットを振ったときに女の子の顔に当たったという事故がありました。やはりこういったものは禁止である。安全を大事にして婦女子優先にするべきである。</p>
市長	<p>たくさんご提案いただきまして、ありがとうございます。公園の使い方はご議論あるかと思いますが、まちづくり提案箱という尼崎市のホームページにあって、いろいろなご意見いただけるようになっていますが、その中に公園は禁止ばかりで、非常に窮屈でせっかく尼崎市に引越してきたのに犬の散歩もさせてくれないのかということを書いてこられる方もいらっしゃいます。なるべく公園を自由に使いたいという考え方の人と、安全を重視する考え方の人と、両方の市民の方がいらっしやるのかなとは思いますが、少なくとも子供たちが、安全に公園で遊べるようにしたいと思います。遊具の件は古くなって朽ちているものを放っておくようなことは絶対に出来ません。一方で危ないものはすべて芽を摘むというよりはご家庭のご協力をいただきながら、こどもたちが遊べるような遊具は少し置いてあげるのがいいのかなとは思いますが。ただ安全には十分注意して、それは市がどんなに先回りしてもすべて防げませんので、市民の方に責任を持ってご利用いただくようにしたいと思います。</p> <p>環境についてもいくつか発言いただきまして、風力発電等は地域によって条件の合う発電所を設置しなければならないことは当然です。これはおっしゃるとおりだと思います。また扇風機ですね、皆さん気をつけて使いましょうということでしたが、そうだったんだと思いました。冷房ばかりというのは体に悪いので、タイマーを上手に使いましょう。熱中症で高齢者の方が非常に体調崩されたり、亡くなられたりということもありますので適正な温度で利用することが望ましいと思いました。本当にありがとうございます。ほかにまだご発言されていない方はいかがでしょうか。</p>
市民	<p>私は初めて参加させていただいたのですが、信頼と分かち合いのまちづくりという欄で生活保護における問題を聞きたいなと思ひまして、質問に答えていただけるかどうかわかりませぬけれども。</p>
市長	<p>ちょっと今日は環境についてのテーマですので、ご質問は出すだけ出していただいて、また後で個別にお答えするか時間があればにしたいと思います。</p>
市民	<p>環境のことなら、今日聞いていた中で、ペットボトルの中に瓶を入れても良いとなっていますが、瓶とペットボトルは別だから、ピンをガラスと一緒にしたら良いのではないかなと思うんです。</p>
市長	<p>ありがとうございます。びん、缶、ペットボトルはすべて一緒に出して、びんの色分けもしなくていいのかということをおっしゃっていただき、非常に心強いです。「びん・缶・ペットボトル」は資源リサイクルセンターのベルトコンベアーにて手選別で分別してありまして、袋と一緒にに入れていただいても最終的には分別されるようになっております。びん、缶、ペットボトルを分別するというご苦労を皆様にかけてもよいようになっています。機械ばかり発達させないでも、市民の力を借りたらどうだというご意見もありまして、それは心強く思っていますが、分別を複雑にすると、わからなくなる市民の方もいらっしゃいます。びん、缶、ペットボトルは一緒に出していただいても良いのですが、「燃やすごみ」には入れないということをご声掛けいただきたいと思ひます。生活保護に関してのご質問だけ先に出していただきませぬか。</p>

市民	私の質問というのは生活保護をもらっている方が、たくさん居られると思います。国民年金をもらっている人と生活保護をもらっている人の金額の差があまりにも大きいということで、生活保護がいくらもらっているかという正確な金額までは私には知りません。だからもしよければ教えてほしいなと思います。国民年金をもらっている方は6万2、3千円しか支給されず、それで健康保険とかを引かれたら、自分が倒れたときには老人ホームにもいけません。生活保護の方は勝手に福祉のほうから来てくれる。そんな話はないんです。
市長	ちょっと、そこまでお受けします。そういうご意見もこういった場でよくお受けします。尼崎市は件数が多いということもございまして、制度上の設計を変えていくといったことの要望を国のほうにしており、これからも力を入れて参ります。今までは改善できない点がありますが、そういったケースのないように働きかけをしております。あと、金額については世帯の人数とか条件によっても違いまして、一概にいくらとはならないのですが、皆様が本当に必要なときはセーフティーネットが整備されていて、かつその制度が妙な不信や憤りを感じることはないように整備されている必要があります。そこから自立に向けての応援の仕組みをしっかり整えているということが信頼と分かち合いのベースになるのかなと思っております。今日の意見はしっかりと承っております。ありがとうございます。では次の方どうぞ。
市民	家でいろいろ分別しますが、狭い家の中で、ゴミ袋いっぱいになるまで置いておくというのはかなりつらいので、早く捨てたい。ただ1ついいなと思ったのは、牛乳パックは子どもが中学校の時とかは学校に持って行ってたが、公民館へ出入りしてから公民館の前のところへ牛乳パックを入れるところがあるんですよ。私は最近そこに入れてます。市民の出入りする場所へ回収する場所を作ってくれるといいなと思いました。それともう1つはペットボトルの蓋をどこへ持っていけばいいのかわからない。調べなきゃいけないと思いますが、そういうのをどこどこへ持っていき表示してくれるとまた貯めようかと思いますが、もう1つは古切手で、貯めるのは役に立つと聞いて、一生懸命切手は缶の中に入れていますが、どこに持っていけばいいのかわからなくて、そういうことを時々いいので市報か何かに掲載していただきたいなと思います。そういう情報がないとごみがいっぱい貯まってしまう。
市長	ありがとうございます。紙パックのように行政としての取組みが進んでいるものについては、公民館などに回収場所を設置しています。古切手など専門的なものについては、全て行政が回収するという事にならないとは思いますが、回収場所などの情報をまとめてホームページに掲載するというようなことは考えられるかもしれませんが、みなさまにお知らせするツールを考えたいと思います。リサイクルの拠点を出来る限り増やすということは非常に大事な事だと思います。今スーパーで回収していただけるところが増えてきました。公共施設でも出来る限りのことはさせていただきます。ありがとうございます。もう少しお時間ございますので、まだご発言されていない方でご意見ございませんか。
市民	テーマとはそれなのですが、市民の声を聞いてくださるということで、介護保険が来年から新しくなるとは聞いたのですが、年々値上がりしますよね。年金は上がらなくて、介護保険料は上がる。それで、段階が今10段階になっていますが、6、7、8段階あたりですかね。ちょっともう少し細かく、例えば8段階の場合200万円以上400万円未満の人で区切られているんです。といいますと201万円でも400万円未満の方と同じ保険料これが3年ずつ続いているんですよ。ちょっとこれはもう少し細かく区切っていただきたいなと思うんですけども、これは切実に御願したいのです。
市長	おっしゃっていただいたように3年ごとに見直しをかけておまして、今年度もまた見直しをかけて、来年度からまた新たな料金となります。介護給付も非常に伸びておまして、そういう意味では保険料が大幅に上がりそうですね。
市民	老人が増えますよね。それはわかるのですが、自分たちが介護を受けるときにどうなるのかなという不安を持っております。
市長	そうですね。ただ国の方でも様々な種類の負担がありますよね。それを総額で合計して一定の金額をこえないようにという考え方がようやく打ち出されました。早くそれにむけて自治体も協力していきたいと思っております。また介護保険料を払えないという方が多くなっても困ります。
担当課からのコメント②	
市民	ちょっと線切りはしょうがないと思うんですけども、もう少し細かく、このあたりよろしく願います。
市長	ありがとうございます。環境のことでご質問はいかがでしょうか。

市民	私は杭瀬から園田まで90歳になっても杖つかないで済むように杭瀬から園田まで歩いて活動しているんですけど、職員を褒めてやってください。いろんなことがありました。杭瀬の小学校の横の公園のトイレに行ったときに、トイレの水が出っぱなしでした。10分ぐらい出っ放しでした。土曜日だけ連絡したら、すぐに現場に駆けつけてくれて、出っ放しの水を止めてくれた。職員を褒めてやってくれ。
市長	そういうことをおっしゃっていただけることは本当に少ないんです。ありがとうございます。
市民	私はいろいろ調べましたけどね、歩きタバコで西宮市では5万円の罰金ですよ。
市長	そうなんです。尼崎以外のところでは取組みが随分と進んでおりますので、頑張りたいと思います。応援してくださいね。嫌とおっしゃる方もいますので頑張って進めていきたいと思います。みなさまで頑張りましょう。ありがとうございます。ではもうひとかた、ご発言をお願いします。
市民	尼崎市は全体的に環境があまり良くないでしょ。公園も確かに汚いんですよ。公園でのポイ捨ての問題もすごいあります。今の子どもたちの遊ぶのもね、自由に遊ばせてやったらいいと思うんですよ。だけど誰もフォローする人がいない。だから段々エスカレートして行って、それにみんなが便乗するんですね。ものすごい危ないことしますし、植木は切り倒すし、めちゃくちゃですよ。「そんなのしたらダメよ」言ったら「何でしたらダメなの」と逆に聞いてこられますからね。自転車で急に道路に出たりするから「危ないからやめなさい」といったら「危なくないもん」となって、私らでは対処できないこと状況ですけど、それを親は知らないと思うんですよ。あとお菓子を食べた後に袋を公園中にばら撒いて、毎朝シルバー人材センターの方が掃除に来られますけれども、その翌日にはごみが散らばっているんです。それがなんとかならないのかということと、もう一つはシルバー人材センターの方だけでなく、社会福祉協議会の人達や子ども会に活躍してもらおうとか、実は私市議会のあれしてましたから、8年間勤めさせてもらいましたから、今引越しましたので辞めましたけど、だからそういうことに関わりましたからわからないことはないんですけども、やっぱり誰かがしないとだめだと思っています。それと尼崎市役所の前にある道路も汚いでしょ。友人が来て尼崎を歩いたんですよ。そしたら尼崎って汚いねと言われましてね。
市長	橘通りでしょうか。
市民	市役所の前の方の向こう側の道路ですね。建物も老朽化してきてますしね。有料化にすると逆にポイ捨てが増えると私は思っています。だからそういうことも踏まえてね、みんなが自覚することを促していくような動き方をしてくれたいかなというふうに思っています。
市長	ありがとうございます。公園で若い人達にお声掛けをいただいているというのは心強いなと思います。
市民	声掛けをすると反抗されます。けど見てもいられないので。
市長	そうですね。昼間に是非お声掛けをしていただきたいと思います。今は引越されたということですが、是非また自治会や社会福祉協議会の活動にもそのノウハウを、お力添えいただきたいと思います。地域の福祉活動も、クリーン活動も、地域のみなさまのお力添えなしには出来ません。何でもお金を使ってやる時代ではありません。先ほど言った自立支援などの取り組みを進めていきたいと思っています。自分が出かける途中にふと気づいたところ、そのような点を地域ごとに集約して、決めた日に掃除をする。その時に様々な形でのボランティアの方々に関わってもらって、いつも同じメンバーに負担がかからないような工夫を地域ごとに推進していかなければならない。それはもちろん地域の方としっかり議論しながら進めていきたいなと思っております。ありがとうございました。
市民	社協の役をしていますが、さわやか指導員と社協との関わり合いがちょっとわかりません。さわやか指導員と社協とは別個のものと言われたことがあって、でも社協のほうからは名前を会長が推薦してるから関わり合いがあると思います。
市民	あの、社協の場合は私らのほうが市長より良く知っています。頂点が社協です。
市民	前回の方がそれとは別やと言われたんでね。
市長	それぞれ連携する必要があるので、別ということはないと思います。
市民	それを確認しようと思っていて、そのためには、5月のお掃除とかクリーン活動とか必ずさわやか指導員含めて、清掃活動をやっておりますのでね、それによかったらと思っていて。ありがとうございました。

市長	ありがとうございます。それでは終了の時間となりました。今日は皆様いろいろなことを教えていただいたり、ご提案もいただいて、すごく勉強になりました。ありがとうございました。またテーマ以外にもいろいろの関心ごとがお有りでちょっと不十分な点があったかもしません。
市民	ちょっとすいません。県立尼崎病院が今度新しくなると聞きまして、その後はどうなるのでしょうか。
市長	<p>県立尼崎病院でしょうか。今は県のほうで検討中です。私たちも要望しておりますが、まだあの建物が使えますので、基本的には療養病床か老健施設かという準備を進めようとしているところで、まだ全然何も決まっていない状況ですが、またみなさまに直接ご意見いただける貴重な機会ですので、今後とも車座集会よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">担当課からのコメント③</p>

担当課からのコメント

担当課からのコメント

高齢世帯を担当する嘱託職員の導入目的は、ケースワーカーの稼働年齢層等への自立支援及び訪問による被保護者等の実態把握を強化すること、そのために、見守り等が中心となる高齢世帯を介護関係等の資格をもった職員で支援することとしています。

保護管理担当

担当課からのコメント

厚生労働省から社会保障と税の一体改革案が出されました。医療費の窓口負担や介護保険の利用者負担、保育料といった費用の総額に世帯の収入に応じた負担額の上限を設定するという内容です。

介護保険事業担当

担当課からのコメント

「介護療養病床」について、現在存在するものについては、平成30年度まで(6年間)老健や特養への転換期限が延長されました。しかし、平成24年度以降「介護療養病床」の新設は認められていません。

介護保険事業担当